

諏訪小だより

令和4年4月6日
4月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

「若者の素晴らしさ」から改めて考えること

校長 齋藤幸之介

桜はすでに盛りを過ぎた、とも言われますが、花びらが散りゆく様子、また地面に落ちているその薄桃は目一杯春を演出しています。可憐ともいえる淡色を仰ぎ見ると、ふと心が穏やかになります。

この度は、御子様の御入学並びに御進級、誠にありがとうございます。これから1年間子供たちが充実した学校生活を送れるように、本校教職員一同努力をしてみたいと思います。

さて、ほのぼのともする春の穏やかな時間の一方で、私共の前には、未だ収束しない新型コロナウイルス感染症、またウクライナへのロシア侵攻など、不安を大いに掻き立てられることが現存しています。どう対応していくべきなのかを常に突き付けられています。同時に、これからの世の中で活躍する子供たちは今後どのような力を身に付けていくのかを改めて考えたい、と思います。

このきっかけとして、私は今回二つの事象から考えてみたいと思います。

ウクライナ情勢を分析する

諏訪中学校の生徒の素晴らしさ

ひと月ほど前の話になります。

私は、朝通学路を歩いておりました。前に3名の諏訪中学校の生徒が歩いていました。話題は、ウクライナ情勢でした。1人が、どうしてウクライナが攻め込まれているのかを、旧ソ連と現在のロシアの地理の変化や情勢を比較しながら説明していました。昨今言われている「地政学的」、つまり政治を国の位置関係などから分析した話はとても分かりやすい内容でした。友達も納得をしながら聞いていました。

ともすると縁遠くなってしまう国や国々の関係を理解するのはとても難しいことですが、同じ地球上で起こっているこの戦いを自身の問題とし、さらに適切な情報を基に分析して理解につなげている中学生の資質・能力の高さと可能性に感心させられました。特に、時間の経過とこれに伴う変化をも視野に入れながらの分析は、諏訪中学校生の「考える力」の素晴らしさを表している、と捉えました。いずれ本校の子供たちにもぜひこのような力を身に付けさせたい、と考えた一場面でした。

ヒットチャート急上昇 SMAP “Triangle”

この間、「音楽がもつ力」についてもいくつかの報道がなされました。自ら演奏することを通して平和

を呼びかける姿もニュース等で見かけることができました。

日本では、解散をして随分と月日が立つ SMAP の17年前の曲「Triangle」が3月1日付のオリコンデイリーデジタルシングルで3位になりました。この2週間前にはランキングの圏外だったそうです。

戦火で苦しむ人々に思いをはせ、平和や命の尊さをうたうメッセージ性の強い作品とされる同曲ですが、言うまでもなく、この曲想、そして歌詞が人々の心を打ったからこそこうして高い関心を得たわけです。もちろん、いわゆる SMAP 世代に改めて響いたのと同時に、特に関心の高い若者の心を惹き付けているとも言われています。メディア・リテラシーの高い世代故、多くがこの曲に触れ、そして受け入れたことは想像に難くないところです。

音楽のもつ意味を受け取る資質、音楽科学習では「感受」とも言いますが、曲から受けた意味やイメージを受け止めることができる力の素晴らしさをここでも見取ることができます。

以上のように、一見平凡にも見える様々な日常場面で、若者のもつ高い資質・能力が発揮されています。確かに、例えば SNS 等への書き込みが適切に判断され、本当に他に伝えられるべきものかどうかは大いに議論されているところです。しかし、一方で諏訪中学校の生徒の説明する力、また、平和を祈ろうとする若者の心情、感受の素晴らしさは言うまでもありません。

改めて確認したい「学校で学ぶこと」

今私共の周囲には様々な未解決な問題が山積されており、子供たちには申し訳ない気持ちにもなりますが、彼らは世の中の主役になったときにこれらを進んで解決していかなければなりません。しかし、今回御紹介をした若者の素晴らしい様々な資質や能力が相俟ったときにはきっと、と期待するところでもあります。だからこそ、子供たちが学校で何をどのように学ぶべきか、を明らかにする必要があります。こと諏訪小学校には、広い敷地を始めとする物的環境、453名の素敵な仲間たちと教職員という人的環境があります。これらにより、「今」求められる生きる力を具体的にしながら、改めて学校そして教育活動のあり方を御提示したく存じます。

本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。